

令和六年度

江戸川女子中学校

適性検査型入学試験問題

# 適性検査Ⅰ

注 意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 試験時間は四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出**しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **座席番号、受験番号、氏名**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

問題は次のページからです。

1 次の **文章1** と **文章2** を読み、あとの問題に答えなさい。

### 文章1

対人不安を和らげるためには、SNSから離れる時間をもつことも大切だ。

SNSは、「どう思われるだろうか？」と気にしなければならぬ相手手を大量に増やす道具と言える。しかも、そうしたSNSでつながっている何人もの相手のことを、学校にいるときだけでなく、通学途上でも、帰宅してからも、どこにいても何をしていても、四六時中気にしていなければならない。

文字だけのコミュニケーションであり、表情も声の調子もわからないため、文章に素っ気なさを感じて不安になったり、絵文字がないだけで気になってしまったりする。相手は単に時間がないために必要最小限の返事をしただけで、否定的な感情など何もないかもしれないのに、気になって仕方がない。こうしたことが起こるのも、SNSで絶えずつながっているからだ。

さらには、SNSで絶えず多くの相手とつながっているせいで、あらゆる行動が承認欲求に支配されてしまう。

友だちの数や「いいね」の数が数字として可視化されるようになったため、そうした数字を気にする風潮もある。友達の数で評価されるといった感受性を植えつけられることにより、できるだけ多くのつながりをもとうと必死になる。「いいね」の数を増やすために、しょっちゅうウケ

そうな発信をする。「いいね」があまりつかないと、意気消沈する。

このように、SNSに巻き込まれることで、手に負えないほど多くの「人の目」を意識しなければいけなくなる。

ウケ狙いの発信をしようという気持ちが災いして、嫌味な投稿になったり、見栄を張ってるのを見抜かれたりすることもある。

インスタ映えなどという言葉も用いられるようになったが、自分がかにお洒落な暮らしをしているか、幸せな日々を送っているかを見せびらかすように、競うように写真投稿をしている人もいる。

それを見て、羨ましいと思つとともに自分がみじめになるという人もいるが、投稿された一連の写真に不自然さを感じて、無理してお洒落に見せかけたり、幸せを装ったりしているのだからと同情気味に言う人もいる。実際、恋人もいないのにまるでいるかのような書き込みをしたり、幸せを装うためにお金を払って友だち役や恋人役を演じてもらったりすることさえあるようだ。

だが、そんなことをやればやるほど、自分に自信がなくなってくる。自信がないため、「人の目」に縛られ、ますます承認を得ようと必死になる。まさに悪循環だ。

自分自身が承認欲求の虜になって、自分の生活の充実をひけらかすような写真を投稿するのに必死になり、それに対する「いいね」の数や友だちの反応ばかり気にしていたが、そんな毎日が面倒になってやめたら、気持ちがすっきりして、自分を取り戻すことができたという人もいる。

「人の目」を適度に気にすることは大切だが、SNSで多くの人とつながることで、「人の目」にがんじがらめにされ、疲弊ひへいしてしまう。そうになると人づきあいが苦痛になり、対人不安の深刻度が増していく。ストレスを軽減するためにも、対人不安を和らげるためにも、SNSから遠ざかり、「人の目」から解放された時間をもつことが必要である。

(榎本博明えのもとひろあき 『対人不安』ってなんだろう?)

## 文章2

僕は、学ぶ目的のひとつは、「どうしたら自由になれるか」ということではないかと思っています。

「幸せになるため」という回答も悪くはないけれど、漠然としすぎているような気がします。「少しでも自由になるために学ぶ」というほうが、たぶん理解しやすいでしょう。

たとえば、この山を越えたところには、別の村があって、そこでは、いろいろな果物が豊かに実っているらしい。そういう話を伝え聞いても、昔は山に道がなかったので、そこへ行くことができませんでした。

「この二〇〇〇メートルを超える山を、どうやって越えていけばいいのか」「途中で迷ったら、戻って来られないかもしれない」。そう考えて行動に移せない時代が長かったのです。

でも、長い歴史の中で、先人たちが少しずつ先鞭を付け、山を越える道を見つけていきます。獣の通り道をたどって、新たな道を見つかりもします。そして、ある道を歩いていたら、確実に向こうの村に行けることがわかるようになります。

人々はいままで狭い世界の中に閉じ込められていたけれども、その道を知ったことによって、新天地での生活を営む可能性を手に入れたのです。さらに、目的に応じて、いろんなところにも出かけられるようになっていきます。

これはつまり、人間が「自由になる」ということです。何も知らなければ、今の生活の枠から一步も外に出られないけれど、いろいろな知識

を手に入れるにつれて、行動範囲が広がっていきます。

「こちらの道の方が楽に行ける」とか「これを使ったほうがおいしいものが手に入る」とか、「生で食べたなら毒に当たって死んでしまうけど、こういうふう調理すれば安全に食べられる」とか。

毎日ひもじい思いをしていたけれども、知識を得ることで、生活がぐんと楽になる。そういうことが起こるわけです。

もうひとつ、例をあげましょう。赤ちゃんは、成長の過程でスプーンやフォーク、お箸の持ち方を学びます。手づかみだと熱いものは食べられないけれど、それらを使えば、ある程度熱いものでも食べられるし、手も汚れなくて済みます。

お箸を持つ練習をしたら、食事をするうえで「自由」が手に入られるわけです。もちろん手づかみで食べてもいいけれど、お箸も使えるようになれば、食べるときに選択肢が増えるからです。

このように選択肢が増え、目的に応じて選べることを「自由」と言います。自由という言葉には、もっと多様な意味がありますが、さしあたりの意味で言うと、これが「自由」の大切な意義のひとつです。私たちが知識やスキル、ノウハウを身につけようとするのは、この意味での自由を手に入れるためなのです。目的に応じて、たくさん選択肢から最良のものを選べばいいわけで、その選択肢を広げれば自由度が増すわけです。

ただし、その「最良のもの」が「自分にとって最良」か、それとも「みんなにとって最良」かで、選択肢が違ってきます。いや、違ってくることに

があります。それによって本当に「自由」なのかどうかも違ってくるの  
ですが、このことはもう少しあとで。

(しゅみとじゆき 汐見稔幸 『人生を豊かにする学び方』)

---

〔問題1〕

**文章1**に、SNSでつながっている何人もの相手のことを、学校にいるときだけでなく、通学途上でも、帰宅してからも、どこにいても何をしていても、四六時中気にしていなければならぬとありますが、これはどのような状態になっていると考えられますか。解答らん当てはまるように二十字以内で**文章1**からぬき出しなさい。

( ) してしまっている状態。

〔問題2〕

**文章2**に、人間が「自由になる」とありますが、これはどういうことですか。「知識」「選択肢」という語を用いて説明しなさい。

〔問題3〕

**文章1**、**文章2**は、「対人不安」や「学び」についての文章となっています。この**文章1**、**文章2**をふまえて、「対人不安」に対して「学び」がどのような役割を果たすと思いますか。あなたの考えを四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と(きまり)にしたがって書くこと。

条件

① **文章1**から「対人不安」がどのようにして大きくなっていくのかを説明すること。

② 「①」をふまえて、「対人不安」に対して「学び」がどのような役割を果たすと考えerかを説明すること。なお、その際に**文章1**で挙げられた事例を利用してかまわない。

③ 適切に段落分けをして書くこと。

(きまり)

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます(ますめの下に書いてもかまいません)。
- 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。





